

令和6年用ハウスメロン病害虫防除基準

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法		〔収穫前使用日数/使用回数〕	注 意 事 項
は種前	つる割病		床土の消毒を行う。			1. つる割病が発生するところでは、抵抗性品種を導入する。
	斑点細菌病		消毒済みの種子を使用する。			
育苗期	斑点細菌病	UN,M3	本葉2～3葉期頃からジマンダイセン水和剤600倍 (16.6g/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕を10a当たり100～300ℓ散布する。			
定植時	ネキリムシ類	1B	ダイアジノン粒剤5 4～6kg/10a〔は種時又は定植時/2回以内〕全面土壌混和する。			
	アブラムシ類	4A	ベストガード粒剤またはダントツ粒剤を株当たり2g〔定植時/1回〕植穴処理土壌混和する。			1. ダントツ粒剤は、トマトハモグリバエにも登録がある。
生	斑点細菌病	UN,M3	ジマンダイセン水和剤	600倍(16.6g/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕	のいずれかを発病前から10a当たり150～300ℓ散布する。	1. ハウス内の換気をはかり、過湿にならないように注意する。 2. 摘心は適期に手をきれいにしてから行う。 3. キノンドー水和剤40は炭そ病にも登録がある。
		M1	キノンドー水和剤40	800倍(12.5g/10ℓ)〔10日前まで/5回以内〕		
	M5,21,11,M5,40	ダコニール1000 ランマンフロアブル アミスター20フロアブル プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍 (10ml/10ℓ)〔3日前まで/5回以内〕 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 1,000倍 (10g/10ℓ)〔3日前まで/5回以内〕	のいずれかを10a当たり200～300ℓ散布する。		
	UN,M3,M5,2,3,11	ペンコゼブフロアブル ダコニール1000 ロブラール水和剤 スコア顆粒水和剤 アミスター20フロアブル	500倍 (20ml/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔3日前まで/5回以内〕 1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕	のいずれかを10a当たり200～300ℓ散布する。		
	(疫病(立枯性))					
育	うどんこ病	M7,9,M7,19,3,UN,M3,11,7,3	1. 茎葉散布法 ベルコート水和剤 フルピカフロアブル ポリバリン水和剤 テーク水和剤 アミスター20フロアブル ネクスターフロアブル スコア顆粒水和剤 2. くん煙法 下記参照	1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 1,500倍 (6.6g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 600倍(16.6g/10ℓ)〔7日前まで/5回以内〕 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕	のいずれかを発生初期から10a当たり200～300ℓ散布する。	1. 生育後期に発生が多くなるので注意する。 2. 同一薬剤の連用はさける。 3. 土壌が乾燥し過ぎないようにする。 4. ストロビルリン系(アミスター20フロアブル)は、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。 5. アミスター20フロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると薬害の恐れがあるので展着剤は加用しない。 6. ネクスターフロアブルはつる枯病にも登録がある。 7. EBI剤(スコア顆粒水和剤、テーク水和剤、トリフミンジェット [®])は、耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
		BM2,M1	クリーンカップ	1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/ー〕を10a当たり100～300ℓ散布する。		1. クリーンカップは予防的効果が主体なので、発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。 2. ハウス内の換気をはかり、過湿にならないように注意する。
		7	カンタスドライフロアブル	1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕を10a当たり100～300ℓ散布する。		1. 浸透性を高める効果のある展着剤や葉面散布剤を加用すると薬害が生じるおそれがあるので使用しない。
		1B,4A,4A,4A,9B,29,4C	マラソン乳剤 ベストガード水溶剤 アドマイヤー顆粒水和剤 [®] ダントツ水溶剤 チェス顆粒水和剤 ウララDF トランスフォームフロアブル	2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 1,000倍 (10g/10ℓ)〔7日前まで/3回以内〕 10,000倍 (1g/10ℓ)〔3日前まで/3回以内〕 4,000倍 (2.5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 5,000倍 (2g/10ℓ)〔3日前まで/4回以内〕 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕を10a当たり100～300ℓ散布する。	のいずれかを10a当たり150～300ℓ散布する。	1. 発生が多いところでは合成ピレスロイド剤を使用してもよい(蚕毒注意)。 ・アディオオン乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 ・アーデント水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/5回以内〕 ただし、抵抗性害虫出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。 2. ダントツ水溶剤(4,000倍で散布)はコナジラミ類、ハモグリバエ類にも登録がある。 3. ベストガード水溶剤、アドマイヤー顆粒水和剤 [®] 、ウララDFは、コナジラミ類にも登録がある。 4. トランスフォームフロアブルはミツバチの活動に影響を及ぼす恐れがあるので、ミツバチ放飼期間中は使用を避ける。
期	モザイク病 〔キュウモザイクウイルス〕 〔カボチャモザイクウイルス〕		アブラムシ類の発生初期から防除を徹底する。			1. 抑制栽培では、定植前からハウスの入口および側面に寒冷しゃを張る。 2. 発病株は、早期に抜き取り適切に処分する。発病株にふれた手で健全株にふれない。
	ハダニ類	10B,20B,20D,25A,6,33	1. 茎葉散布法 バロックフロアブル カネマイトフロアブル マイトコーネフロアブル ダニサラバフロアブル コロマイト水和剤 ダニオーテフロアブル 2. くん煙法 下記参照	2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/1回〕 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/1回〕 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	のいずれかを10a当たり150～300ℓ散布する。	1. 殺ダニ剤は、単用で使用する。 2. コロマイト水和剤は展着剤を加用しない。
		6	アフーム乳剤	2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	を10a当たり100～300ℓ散布する。	1. 本剤使用後、ウリノメイガに対して追加防除が必要な場合は、ゼンターリ顆粒水和剤1,000倍 (10g/10ℓ)〔発生初期但し収穫前日まで/ー〕を使用してもよい。
30		グレーシア乳剤	2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕			

くん煙法

薬 剤 名	RAC	燃焼法	対象病害虫	使用量の目安	時期	回数	薬 剤 名	RAC	燃焼法	対象病害虫	使用量の目安	時期	回数
トリフミンジェット [®]	3	自 燃 式	うどんこ病	400㎡当たり50g	前日まで	5回以内	マブリックジェット [®]	3A	自 燃 式	ハダニ類	400㎡当たり50g	3日前まで	2回以内

【注意】 マブリックジェット[®]は眼に対して刺激性があるので煙が眼に入らないように注意し、散布後の作業にもマスクを着用する。眼に異常を感じた場合は直ちに水洗いし、眼科医の手当てを受けて下さい。

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成分名	RAC	農 薬 名	使用回数	同一成分 総使用回数	備 考	成分名	RAC	農 薬 名	使用回数	同一成分 総使用回数	備 考
ニテンピラム	4A	ベストガード粒剤	1回	4回以内	定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内	マンゼブ	UN,M3	ペンコゼブフロアブル	5回以内	5回以内	
		ベストガード水溶剤	3回以内				3,UN,M3	テーク水和剤	5回以内		
クロチアニジン	4A	ダントツ粒剤	1回	4回以内	育苗期株元処理及び定植時土壌混和合計1回以内 散布及び定植後株元散布合計3回以内		UN,M3	ジマンダイセン水和剤	5回以内		
		ダントツ水溶剤	3回以内			M7,19	ポリバリン水和剤	5回以内			
T P N						M7	ベルコート水和剤	5回以内	5回以内		
						M5	ダコニール1000	5回以内			
						M5,40	プロポーズ顆粒水和剤	5回以内			